

大阪歴史科学協議会 2020 年度大会 (オンライン開催)

大会テーマ「日本近世の開発と治水」

地球規模の気候変動と海水温の上昇は、世界各地に異常気象をもたらしている。日本列島も例外ではない。毎年のように発生する大規模な風水害は人々の生命と生活を脅かし、地域の持続的営みの困難に拍車をかけている。自然と人の関係が根本から問い直されねばならないが、その際、開発と治水をめぐる政策を歴史のなかに位置付け、政策とその転換がもたらす矛盾を地域社会の場において明らかにする作業が有効なのではないだろうか。

大阪歴史科学協議会ではこのような問題意識に立ち、大会テーマを「日本近世の開発と治水」と設定し、村田路人氏に報告を依頼した。村田氏は畿内の大河川である淀川や大和川を素材として近世治水史研究に取り組んで来られたが、その問題関心は畿内近国支配論にある。これら河川の下流には大坂や堺という政治的・経済的要地が位置し、それゆえ重要な意味を持つ治水を、幕府は広域支配によって実現していた。ただし幕府と個別領主による支配が錯綜して展開する畿内では、広域支配が個別領主の支配権に抵触する局面も見られた。このように村田氏の治水史研究は、近世畿内における支配の解明と密接に関わっている。

これまでの研究で村田氏は、幕府の治水政策のなかでも、堤外地政策に注目することの有効性を提起してきた。堤外地とは、集落から見て堤防の外側、すなわち、実質的には河川の右岸堤防と左岸堤防の間の、水面を含む空間を指す。堤外地は地域住民の耕地化への欲求が高かったが、18世紀初頭まで、幕府は治水的観点から堤外地の開発についてはおおむね抑制的であった。堤外地は開発と治水がせめぎ合う空間なのであり、堤外地政策の分析は、治水政策の展開を、地域住民の利害をも組み込んでダイナミックに把握することを可能にするといえよう。

しかし、水害の原因となる開発を抑制する政策方針は、国家支配権強化を目指し、かつ開発至上主義的性格を持つ享保改革によって転換する。これによって、享保期以降、堤外地政策も大きく変化した。大会報告では、畿内の大河川水域における堤外地政策について、開発と治水の矛盾関係を前提に展開した18世紀以降の変遷を取り上げる。この分析を通して得られる近世の治水政策の歴史的評価は、人々の自然に対する働きかけの持つ意味の、長期的な視野での捉え直しに資するであろう。コロナ禍で変則的な開催となった2020年度大会にふさわしい議論を期待する。

報告 村田路人氏(神戸女子大学)

「堤外地政策からみた近世の開発と治水」

日時 2020年10月4日(日)13:00～

場所 WEB会議システム「ZOOM」を用いたオンライン開催

*例会に参加ご希望の方は、①大阪歴史科学協議会ホームページの「大会」情報に掲載されている参加申し込みフォーム (<https://forms.gle/T6kg95p8PNBNEd2h9>) よりお申し込みいただくか、②大阪歴史科学協議会のメールアドレス (osaka_rekkakyo@yahoo.co.jp) に、必要な情報(氏名・メールアドレス・会員かどうか・ご所属)を添えてEメールでお申し込み下さい。折り返し、ZoomのURL等と報告レジュームをお届けします(ご提供いただいた個人情報は例会終了後、破棄します)。

*会員以外の方も参加を歓迎しますが、会員・非会員を問わず、上記のアドレスに事前連絡をお願いします。

大阪歴史科学協議会 事務局

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5 大阪大学大学院文学研究科日本史研究室気付

Web Site: <http://osakarekkakyo.blog.fc2.com/> e-mail: osaka_rekkakyo@yahoo.co.jp

TEL: 06-6850-5101 口座番号 00910-7-307966